

第334回: 腹腔内出血をきたした肝血管肉腫の一例

(2019.5.24)

和田 尚久 (司会, 消化器内科学), 栃本 昌孝, 犬飼 円 (病理学)

症例概要

症例: 76歳, 女性

主訴: ふらつき

既往歴: 労作性狭心症, 2型糖尿病, 脂質異常症

家族歴: 父親と姉; 結核, 姪; 子宮癌

現病歴

〇〇年〇月〇日にふらつき, 腰痛を主訴に他院受診。同院の造影CTで肝右葉に10 cm大の腫瘍性病変と

腹腔内出血を認め, 当院転院となった。TAE施行後, 一旦状態が安定し, 5日後に退院となった。退院後3週間目に, DICで再入院し加療された。再入院後10日目頃より, 腫瘍から出血が見られたため, TAEが施行されたが, TAE施行2日後に再出血し, 死亡された。

病理所見

主病変: 肝臓血管肉腫

随伴病変: 播種性血管内凝固症候群

(当症例は学術誌に投稿予定のため, 抄録のみ掲載した)